

定期総会開催と

五十周年方針について

今後の活動と五十周年事業の方針を提案

4月に行われた臨時総会と臨時の役員改選についてのご報告と共に、9月29日開催の定期総会において提案予定の、次年度及び今後の活動方針、及び、母校と協力して行う五十周年事業への参加方針の概要についてお知らせします。

当面の対応を含めた

今年度事業計画について

「会員相互の和を図り、かつ母校の発展に協力する」という同窓会の目的のため、厳しい財政状況を考慮しつつ、費用をかけるべきところにはかけていく。

以下に掲げる基本方針を柱に、会相互の親睦を深めるような情報の発信を充実させるとともに、母校との協力体制を強化することで、母校発展に寄与していく。

① SNS、ネットワークを利用した情報発信とその周知

・従前のホームページ、フェイスブックに加え、インスタグラム、X(旧ツイッター)、LINEによる情報提供を、それぞれの特性を生かした形で行う。

・同窓会報WEB版(当面は紙ベースとは異なる、日常の話題)を発行し、卒業生、旧職員のインタビューや、卒業生のやっている店の紹介といった記事、職員の消息情報など、会員の興

味をひくコンテンツを展開する。当面は紙面の同窓会報で存在を周知するとともに、ロコミによる拡大を図る。

・ホームページ上に問い合わせフォームを設置し、問い合わせに対応できるようにする。

・ホームページ上に住所変更等の連絡フォームを設置するとともに、異動通知はがきの様式を掲載し、異動情報の把握に努める。

② 同窓会報

・当面、第15号として五十周年事業の詳細告知兼寄付金募集の号を発行する。それ以降については、発行1回につき250万円程度かかる状況であることから、WEB版への全面移行や紙媒体の有償化などを含めて検討する。

③ 金井祭への参加

・今回の金井祭については、PTA本部企画の手伝いの形での参加。

・次年度は五十周年に合わせて同窓会独自企画での参加を検討。

④ 入会事務・会員情報管理

・引き続き例年同様の方法で行う。入会書類に同窓会ホームページ、各SNSの紹介を新たに掲載し、入会時の登録増加を図る。

・ホームページ上に住所等変更連絡フォームを設置するなど、異動連絡をしやすいとする。

⑤ 部活動支援金

・引き続き例年同様の方法で行うが、上限金額などの再検討を行う。
・大会出場にかかる出場部員及び補

助部員の交通費・食費・宿泊費、部の備品・消耗品の購入や、残金の部費への充当などを例示するとともに事後報告をお願いして、さらに有効活用されるよう図る。

⑥ 会費・賛助金について

・再開した年会費・賛助金徴収について、今回のスマホ決済の試行結果などを見て、より高い回収率を目指す。

⑦ 役員改選について

・次回定期総会に向けて、会報紙面及びWEBで役員候補者を広く募る。今回の改選に新メンバーが加わっていることを期待したい。

五十周年記念事業の方針について

母校の五十周年実行委員会において、同窓会長が委員長職につくほか、祝賀会、記念事業、記念誌の各部会に役員が参加し、一体となって母校五十周年の様々な仕事にあたって行きます。このため、基本的には、母校との密接な協力体制のもと進めていくこととなりますが、その上で、同窓会に大きくかわる部分については、次のような方針で次回総会に提案すべく、準備しています。

記念事業と寄付金について

過去の周年記念事業は後述の通りですが、事業内容については、現在、生徒の皆さんの学校環境の改善につながる事業になるよう、学校側と調整中です。記念事業の財源は、在校生による積立金と同窓生の皆さんからの寄付金に頼ることになるため、同窓会としても、皆さんが「生徒・母校

のためになる」と納得いただける内容となるよう、調整を重ねていきます。今回の総会で検討状況をご報告したうえで、承認が得られれば、次号の会報で概要、目標総額と共に寄付方法を公表し、広く会員の皆さんに寄付を募っていくこととなります。

記念誌について

これまでの周年記念誌とは異なり、過去十年間だけに焦点を当てるのではなく、改めて五十年間の軌跡を再確認できるようにする方針で、このため、同窓会が中心となって編集していきます。四十周年までの記事も過去の周年記念誌の再掲ではなく、新たな情報、新たなエピソード等を盛り込むことを目指しています。

編集の過程で、過去の情報・エピソードなどについて、同窓会SNSなどを利用して逐次、同窓生に広く情報を求め、誌面の充実を図っていきますので、皆さんも是非、ご協力をお願いします。

なお、同窓生については、寄付金募集と連動した事前予約制にて販売する方針です。

記念式典・祝賀会について

令和7(2025)年10月に予定の式典・祝賀会については、式典は学校、祝賀会は同窓会が主導で行うことを基本として準備中です。過去の周年事業とは異なる、五十周年という大きな節目であるため、式典・祝賀会の招待者決定については、招待すべき方に漏れの無いよう、学校側と協議して慎重に進めていきます。